

第二回理事会報告

日時 平成25年10月3日(木)  
11時～15時

会場 江戸東京博物館  
会議室

出席者 全連退 会長・副会長・常任理事・理事・監事等68名

司会進行

総務部長 入子祐三

一 開会のことば

副会長(近畿) 松重享蔵

二 綱領の唱和

教育振興部長 大野幸男

三 会長あいさつ

会長 戸張敦雄

この秋には、次のことについて力を入れていこうと考えています。まず、調査・アンケートの集計・考察、それに基づいての新たな施策の検討を深めていきたい。全連退では、私から教育課題答申委員会に3つの諮問をしています。道徳の教科化に関する諮問、



教育委員会制度の見直しに関する諮問、教職員免許状の制度設計に関する諮問です。そのうちの第一の諮問についての答申がまとまりましたので、9月24日、文部科学省の「道徳の教科化に関する懇談会」の座長宛に、全連退としての意見を具申しました。

次に、政党内の組織への要望・要請を実施していこうと考えています。9月13日には、衆議院の文部科学委員会の委員長、理事への要望書を携えて議員会館を訪問し、13名の方々に要望書をお渡ししてきました。この秋は、衆議院の文部科学委員会の方々全員の出身県の退職校長会にお願い

して、その方々への要望活動を展開することにしたと考えています。

四 報告事項

(1) 第1回副会長会報告及び3省庁への要望書提出について(会報189号参照)

(2) 文部科学省初等中等教育局長との教育懇談会について(入子総務部長) 8月20日に文部科学大臣官房山下和茂審議官に、資料を基に説明をしていただいた。(会報190号参照)

(3) 文部科学省の平成26年度概算要求について(木山総務) 文科省は、「教育再生の実現」「科学技術イノベーションの推進」「スポーツ立国、文化芸術立国の実現」の3本柱を立てた。教育全体をひとつのパッケージにして総合的に調整をしながら要望していく考えだ。(4) 衆議院文部科学委員会委員長・理事等への要望活動

とお願ひ(木山総務) 文部科学委員が出ている選挙区の会長は、その委員に対して要望活動をしていただきたい。

(5) 各部・各委員会活動状況報告

1 総務部(略)

2 教育振興部「教育の日」の制定推進と事業の充実に資するためのアンケート調査を行う。学校週5日制の問題に関するアンケートは、集計中。「家庭教育振興の指針」について、2カ年計画で研究を進めている。

3 生涯福祉部 上寿者・米寿者の調査は、集計し分析中である。叙勲受章者の調査も集計中である。全国の会員の方々の、地域または教育の分野での活動例を情報収集している。

4 広報部 190号発行に際して、新退職予定校長への勧誘のための増刷を申し込

んでほしい。

5 会計部(略)

6 教育課題答申委員会 「道徳の教科化」と「教育委員会制度」についてのご意見をたくさんいただいた。それに基づいて、次のようにまとめて、会長に答申した。

●現行の道徳教育の基本的な考え方を堅持し、学校の教育活動全体を通じて行う。

●道徳の教科書には、民間会社において作成し、一定の検定基準に合格した図書を当てる。●小中学校ともに学級担任が指導することとし、専門の免許状は設けない。●数値・記号による評価はしない。というものだ。

7 出版事業委員会 第6回目の出版本について、執筆者の方々が執筆に取り掛かっている。

8 ホームページ検討作成委員会 「あなたの所属して

いる団体に、ホームページが開設されていますか」というアンケートにご協力願いたい。

—— 昼食・休憩 ——

五 協議事項

課題(全連退の使命を果たすために、本部と各団体

●退職校長会IIの役割をどう考えるか)

話し合いに入る前に、会長から課題についてのオリエンテーションがあった。

(1) 分科会 8グループに分かれて話し合う。今年も地区ごとのグループではなく、いろいろな地区が混ざり合っ

Aグループ

●使命を遂行していくためには、全連退本部と各退職校長

会との信頼関係が基盤になる。●退職校長会は、魅力あるものにしていく努力をさらにする必要がある。●各都道府県の活動について、会報を通して知らせるに当たり、身近なものとして会員が受け止められるよう工夫して欲しい。

Bグループ

●各県が活性化するには、入会者をきちんと確保することだ。退職する校長にリーフレットを渡すときに、出かけていって説明して、理解を図る。●魅力ある校長会にするには、支部を活性化させることだ。●現職の校長会との懇談会が大事だ。●クラブ活動の充実を図っている県があり、県あるいは支部の活性化につながっている。

Cグループ

●現職の校長会等で話をし、入ってもらおう。●支部の組織

の充実によって、充実した退職校長会にしていく。●県教委との話し合いを通して学校支援を地区、各県で実行していくことを考えている。●九州地区では、退職校長会綱領を作成した。

Dグループ

●県の総会が、各支部の手本となるようであればならぬ。そのためには研修に力を入れる総会にする。●地域社会、地域住民との密着・連携が大切ということで、PTAの会合、現職校長会、市町村教委との話し合いをしている。●現職の校長に頼られる退職校長会でありたい。●退職したばかりの新入会員を支部ごとに集め、今の生活の様子、退職校長会の存在意義を話している。

Eグループ

●総会のときに講演を含めて

研修会を行ったり、研修会そのものを丸一日かけて実施しているところもある。そのときに、県から補助金をもらえるところもある。これは、今までやってこられた実績の上に立った信頼関係であるからだ。

**Fグループ**

●全連退のホームページが立ち上がり、各県のホームページとアクセスして、お互いに情報交換できるようにしなければらしい。●「全連退情報」を増し刷りしながら、各会員に全連退の様子を知らせ、連携が取れるよう努力しているところもある。●少子高齢化時代になり、学校数も少なくなってきたので、退職する人が減り、会員の減少で頭が痛い。

**Gグループ**

●全連退からの情報や答申を、

各支部の団体の中に徹底していくことが、活性化につながるのではないかと。全連退から配布されているリーフレット、会報、いろいろな情報は各県では大変よく活用されているとのことだ。●リーフレットには、全連退のイメージが非常によく表されている。これを、各団体の中での内容に置き換えて作り変えていくことが大事だ。このリーフレットの中で、「入会をお勧めします」の項目は大変よく表されていて、各県での新しい会員の勧誘に大いに役立っている。●教育委員会、校長会との関係をできる限り密にしながら、退職校長会として現職校長を支援する方針に基づく活動を具体的に進める工夫をしなければならぬ。

**Hグループ**

●今日の理事会では、新しい情報や報告があったので、大

変よかった。●本部で取り組んでいるアンケートは大事にしてほしい。●入会については、校長時代が終わり65歳まで現場に入っていると、5年たったときに加入しにくい。5年後にもう一度声掛けをし、意識付けをはっきりさせる。●退職者の教育力を潜在的な教育力にしないで、目に見える形で発揮してもらう必要がある。そのために、先輩としての思いを指導・助言していく必要がある。

六 会長の「まとめ」

会長 戸張敦雄  
入会するに当たって、メリットがないとか魅力がないとかいわれるが、会に入って活動しているうちに魅力というものがある。メリットも理解できるようになってくる。まずは入会、入って活動してほしいということでしょう。リーフレットの「退職校長



会への入会をお勧めします」は、それぞれの都道府県の退職校長会にお入りいただくことをお勧めする内容で、これを活用されているようで、非常に嬉しく思っています。午後のグループ別の話し合いを通して、多くの示唆を私たちに与えていただいたこと心から感謝申し上げます。

七 閉会のことば  
副会長（中国） 山田忠男